

平成24年5月9日

外務省国際協力局
民間援助連携室長殿

平成24年度NGO相談員 出張サービス実施報告書

(特活) 国際協力NGOセンター
津島由美子

NGO相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたので、ご報告申し上げます。

1. 概要

- 出張サービス企画名：科学技術週間 JICA 筑波一般公開 NGO 相談員ブース出展
- 実施日時：平成24年4月21日 10時00分～16時30分
- 場所：独立行政法人国際協力機構 筑波国際センター

2. 実施内容

国際協力に関する市民向けのイベント（科学技術週間 JICA 筑波一般公開）の来場者に対して、国際協力の活動の一分野としての NGO 活動について相談対応、啓発活動を行った。イベント自体への来場者は 610 名、相談員ブースに立ち寄った来場者数は約 30 名であった。

3. 所感及び効果等

イベント実施団体である JICA 筑波が来場者として予想した国際協力に関心の高い学生などの来場があまりなく、家族連れ、年配者などの来場者がほとんどであったので、相談対応よりもチラシなどを配布しながら、国際協力の紹介や、NGO 活動や参加できる身近な方法などを積極的に説明する活動を行った。

チラシを受け取られた市民の中には、相談員の説明を聞いて関心を持たれる方も多くあり、国際協力の分野における NGO の活動や、募金・寄付など今すぐにもできる国際協力の活動をお勧めすることで今後のさらなる関心を喚起することができたと実感する。

同イベントには以前当団体がワークショップの場を提供した高校生が国際協

力に関する自発的な活動としてフェアトレード商品を販売するブースを設置しており、彼らと話をする中で、今後の文化祭などの行事にてさらなる活動をすすめるための助言などを行った。

また、イベント開催団体である JICA 筑波の職員から数件の相談を受けたので、対応し、今後も連携関係を進めるための布石となった。

今回は相談員ブースの出展という目的で出張サービスを行ったが、来場者から積極的に相談を受けるという状況ではなく、事前の来場者分析、出張サービスの具体的企画など、事前に詳細に依頼団体と打ち合わせをさらに行うべきであったとの反省点があり、今後の出張サービス実施時に生かしたい。

当日イベント会場掲示の様子



相談員ブースの様子



平成 24 年 5 月 9 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人
横浜 NGO 連絡会

NGO 相談員による出張サービス実施企画について

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり企画実施いたしましたので報告いたします。

記

1. 団体名：

(特活) 横浜 NGO 連絡会

2. 出張サービス企画名：

「かながわ国際交流まつり」における相談対応サービスの実施

3. 実施日時：

平成 24 年 4 月 29 日（日） 10 時 00 分～15 時 30 分

4. 実施場所：

沢渡中央公園・横浜市民防災センター
横浜駅より徒歩 10 分

5. 企画の概要

横浜市神奈川区の区民を対象とした国際協力・国際交流イベントの屋外会場に NGO 相談コーナーをテント設置して応接相談を実施した。本イベントは、「かながわ湊フェスタ」、「よこはま水と緑の日」「友・遊・まちづくりフォーラム」という複数の市民イベントと同時開催された。天候にも恵まれ、会場は多くの区民で賑わった。

相談応接にあっては、国際協力に関心を持つ市民ならびに出展団体など NGO 関係者からの相談を受けた。また、国際協力以外の市民活動のイベントも同時開催されたことから、国際協力への無関心層やまだ関わりが薄い市民を対象に NGO の活動や ODA についての理解を促進することができた。一般市民・学生、NGO 関係者、地方議会議員など幅の広い層からの相談があった。NGO 相談員制度の広報にも寄与することができた。

6 集客人数または相談対応件数

当該イベントへの参加人数：4,000人（主催者発表）

相談対応件数：10件

7 所感及び効果等

当該イベントに参加したNGO、国際協力への関心層のみならず、多様な市民団体が参加しているイベントが同時開催されているために多様な層への働きかけや相談応接をすることができた。市民が多く集まるこうしたイベント会場でNGO相談ブースを出すことにより、市民に対してNGO相談を広報するという観点でも効果が非常に高いと思われる。実際に今までNGO相談の制度やNGOについてあまり知見がなかった人も相談コーナーのブースを訪れていた。

このイベントにてNGO相談を実施することは、当該地域の定点観測のような効果も得られ、区レベルの地域団体の活動状況や区民の関心などの微妙な変化なども情報収集することができる。例年、NGO相談員の空白期間にあたる4月に本イベントが開催されていたために出張サービスを実施したのは、初めてのこととなったが、弊会独自の相談ブースを設置して相談業務を毎年実施してきた。こうした経験から得られた最新の情報は、相談業務に活かすことが出来るために非常に重要である。相談応接の重要性に加えて、NGO相談業務を恒常的に地域で実施していく上でも最新の地域情報の収集は非常に重要であることを改めて認識した。次回以降も可能であれば、本イベントにおいて出張サービスを実施できるとよいと考える。



相談対応



相談ブース

以上

平成 24 年 5 月 9 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人
横浜 NGO 連絡会

NGO 相談員による出張サービス実施企画について

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり企画実施いたしましたので報告いたします。

記

1. 団体名：

(特活) 横浜 NGO 連絡会

2. 出張サービス企画名：

JICA ボランティア募集説明会における出張相談

3. 実施日時：

平成 24 年 4 月 15 日(日) 10 時 30 分～12 時 30 分
同上 14 時 30 分～17 時 00 分

4. 実施場所：

JICA 横浜 地階体育館

5. 企画の概要

①企画内容：平成 24 年度募集 「体験談&説明会」

シニア海外ボランティア： 10 時 30 分～12 時 30 分

青年海外協力隊： 14 時 30 分～17 時 00 分

②目的：JICA ボランティア以外の国際協力活動、NGO 活動、ボランティア活動などについての幅広い相談に対応する。

③対象：対象は、シニア海外ボランティア、青年海外協力隊の参加希望者
約 200 人

* JICA 横浜の地階体育館。会場正面に向かって左側壁面前に JICA によるボランティア募集相談コーナーに隣接する形で NGO 相談デスクを設置。

* 相談時間：プログラム進行中随時およびプログラム終了後から閉場までの時間。

* 相談体制：出張相談員枠として相談員 1 名（小俣典之）

団体独自の応援職員 1 名（萩原悦子、青年海外協力隊説明会時間帯のみ）

6 集客人数または相談対応件数

相談対応件数

シニア海外ボランティア募集説明会参加者：6 件

青年海外協力隊募集説明会参加者：4 件

合計：10 件

7 所感及び効果等

JICA 横浜との連携による JICA ボランティア募集説明会会場での出張サービスの実施も恒例化してきている。全体進行を担当する司会者からの NGO 相談の実施紹介などもプログラム内にしっかりと取り入れてくれており、相談者が一人でも多く NGO 相談のコーナーを訪れるような細かい配慮も心がけてくれており大変にありがたい。

シニア海外ボランティア募集説明会参加者よりも青年海外協力隊募集説明会参加者の方が NGO 相談へのニーズが高いと思われ、相談者数も後者が前者を上回るのが通常である。しかしながら、今回は相談者数では逆転現象がみられた。青年海外協力隊説明会参加者による相談は 4 件と少なかったが、内容的には NGO 相談の目的に合致し、相談内容も深いものとなった。募集説明会の実施プログラムの特性から一度に多くの相談者が相談を訪れることが多いが、今回もそうした傾向があった。深い相談に応じるには一定の相談時間が必要であり、待機を余儀なくされる人もいる。そのために相談希望がありながら、相談に至ることができない来場者が少なからずいることは気になる点である。待機者がいると相談時間も短めにせざるを得ず、相談の進め方の工夫も必要である。必要に応じて継続相談をするように助言することなどによりこうした課題に対して対応をしている。

今後も工夫を重ねながら、定例化した JICA ボランティア募集説明会における出張サービスをさらに効果的なものとしていきたい。



相談対応



募集説明会の資料コーナーの様子

以上

2012年5月9日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

認定特定非営利活動法人
アジア日本相互交流センター・ICAN
代表理事 田口 京子

NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

記

1. 企画名：青年海外協力隊説明会（静岡開催）

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

2. 出張者氏名：井川 定一

3. 依頼元／主催団体名：国際協力機構 J I C A 中部

4. 実施日時：2012年4月30日（日）14時00分～16時00分

5. 実施場所：財団法人浜松国際交流協会（静岡県浜松市中区砂山町324-8）

6. 参加者数：参加者 58人

7. 相談件数：11件

8. 企画概要：青年海外協力隊説明会における出張相談業務。

9. 実施内容：静岡県浜松市で開催された J I C A 青年海外協力隊の説明会において、相談ブースを設置し、一般市民から NGO への就職やボランティアに関する相談を受け付けました。

10. 所感及び効果：

当日は、青年海外協力隊の説明会において、参加者全員に対し NGO 相談員制度の説明を行うとともに、NGO 相談員専用ブースを設置し、個別に NGO に関する相談を受け付けました。

特に青年海外協力隊制度による海外赴任と比べ、NGO 有給職員として、長期ボランティアとして、ワークキャンプやスタディツアーとしての海外赴任（訪問）との違いについて、熱心に質問をする方が見られました。NGO という言葉自体があまり知られていない地域において、海外で活動したいという層が、NGO という選択肢を持ち、将来への可能性を広げることがとても有意義であると感じました。



以上

外務省国際協力局民間援助連携室長 殿

(団体名)特定非営利活動法人名古屋 NGO センター

NGO相談員による出張サービス実施報告書

4月6日付貴信にてご承認いただきました、NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名 :平成 24 年度 JICA ボランティア春募集説明会

【形態 : 相談対応サービス ・ 講演 ・ セミナー ・ その他 ()】

2. 催しの概況:

実施日 2012年4月18日(水) 17:30~20:30

2012年4月28日(土) 13:00~16:00

場 所 独立行政法人国際協力機構 中部国際センター

対象者 学生、社会人、退職者など来場者約100名(ブースでの個別相談者 18名)

概 要 海外でのボランティア活動を目指す方々に、募集の概要、体験談の紹介、相談対応を行う JICA ボランティア説明会にブース出展した。JICA のように長期間での派遣ではなく、もう少し身近にできるボランティア、短期間で海外ボランティアしたいという問合せや、NGO スタッフになりたいがどうしたらよいかなどの質問を頂いた。

3. 実施内容:



◎ ブースでの個別相談に応じた

● 主な相談内容は以下のとおり。

- ・大学院生だが、将来的に国際協力の分野で就職をしたいと思っている。職員は募集していますか？
- ・NGO でインターンを希望したい。夏休みの短期間で受け入れは可能か？
- ・看護の仕事をしているが、それを活かして国際協力を仕事にしたいと思っている。どのような手段があるか？

多数の来場者がいらっしゃり、協力隊より短い期間でまずは経験を積みたいという相談が寄せられました。情報が欲しいという方以外に、じっくり相談したいという方が多く、フリータイムが短かったため、結果的に対応できた方は少数となってしまいましたが、一人ひとりに丁寧に応じることができました。

以上

2011年4月30日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人ソムニード
NGO相談員 竹内ゆみ子

NGO相談員による出張サービス実施報告書

NGO相談員による出張サービスを下記の通り実施しましたので報告致します。

記

1. 企画名：平成24年度JICAボランティア春募集「体験談&説明会」における相談デスクの設置 【形態：相談対応サービス】
2. 出張者氏名：竹内 ゆみ子
3. 依頼元／主催等団体名：JICA 中部
4. 実施日時：平成24年4月25日（水）18時30分～20時30分
5. 実施場所：県民ふれあい福寿会館 301 中会議室
6. 参加人数：50名
7. 相談件数：2件
8. 企画の概要
 - (1) 企画内容：JICA ボランティア（青年海外協力隊及びシニア海外ボランティア）への参加を希望する人、国際協力ボランティアに興味・関心のある人を対象とした、「JICA ボランティア体験談&説明会」に相談デスクを設置し、相談者からの質問・相談に応じる。
 - (2) 目的：
 - ①JICA ボランティア以外の国際協力活動を中心に、地域や国内外で参加できる多様な国際協力活動への参加方法について周知する。
 - ②NGO 相談員制度について周知する。
9. 実施内容：相談員ブースにて、NGOに関する質問・相談に応じた。
 - ・（岐阜県内中小企業の執行役員から）中小企業でもできる海外協力や東北福島被災地支援について、県内のNGOとの連携ができないか
 - ・企業とNGOとの情報交換
 - ・社員の参加ができるような活動
 - ・地方での国際協力の具体例

10. 所感及び効果：初めての夜の開催だったことで、相談対応の時間（JICA ボランティアに関する概要説明の後）が少なかったことが、相談件数の減少につながったと考えられる。しかし、岐阜県の中小企業から「これまでの経営方針を変えて、国際協力や東北大震災への支援をしていきたい」という趣旨の相談を受け、CSR への積極的な姿勢を感じることができたことは、岐阜県の NGO として嬉しいことであった。



相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「ネパールを通じて国際協力を考える」
※出張形態：講演
2. 出張者：井上理子（(公財)PHD協会職員）
3. 実施日：2012年4月21日（土）14：45～16：15
4. 場所：篠山市立丹南健康福祉センター（京都市伏見区桃山毛利長門東町8）
5. 対象者：篠山ナマステ会会員総会（約30名）
6. 実施報告：篠山市にある篠山ナマステ会総会記念講演として、上記表題の講演を行った。講演は篠山ナマステ会の会員を対象とし、井上のネパール留学滞在経験の話を通して国際協力のあり方を考えるような構成でパワーポイントを用いて行った。まず、井上自身がネパールという国に出会い、留学するまでにどのような変化があったか、そこからどのような行動をしたのかという実体験を基に話をした。
一つの体験談として、外部の人間が物資支援をしているあるネパール農村部を訪れた際に、外国人である私を見るなり「ペン」がほしいと言われた際の話を取り上げ、物資支援だけでは対等かつ豊かな人間関係の構築に大きな影響力を与え、さらに依存心を植付けてしまう可能性があることを伝えた。また、自給自足で回っていた農村の生活に少しずつ、プラスチックできれいにラッピングされた食材が導入されていく一方で、プラスチックのゴミが散乱している状況をよく目にする。篠山ナマステ会の方の何名かは何度もネパールを訪れ、学校を建設等の活動をされているため、「ない場所にモノを」という一方的な支援のあり方、関わり方について考える時間となったことだと思う。国際協力を行う際の、外部者の関わり方について話しをした上で、PHD協会の行う国際協力について話をした。18年間ネパールで医療活動を行った当協会の提唱者である岩村昇医師の経験をもとに、一時的なモノ・カネの支援ではなく、草の根レベルの人材交流・育成を目的としていることを伝え、篠山ナマステ会のみなさんの今後の活動の方向性を考える一つの材料になったことだと思う。

7. 添付画像：別紙に当日の様子を3枚添付



篠山ナマステ会での出張相談「講演」の様子①
ネパールの国紹介中



篠山ナマステ会での出張相談「講演」の様子②
ネパールの生活を例に取り上げ、豊かさのあり方について伝えているところ。